

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育の基礎的理解に関する科目 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論 Introduction to Education	2単位	必修	講義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	① 教育という現象の全体像を把握し、教育（特に初等教育）に関する理念と実際をおおまかに理解することを目的とする。 ② 日本及び世界の教育の歴史と発展を理解し、現代社会の変化を把握して、教育の思想について理解することを目的とする。					
キーワード	教育学の概念、教育の本質、教育制度、教育課題	学修教育目標	① 教育学の基礎理論を理解できる。 ② 社会の変化に伴いながら、変化してきた学校園の歴史や授業方法、教育課程、学力観を理解できる。 ③ 日本及び世界の教育の歴史と思想を理解できる。			
授業科目の概要及び学修上の助言						
教育学の概念、教育の本質、教育制度、教育課題を理解し、自身の教育の意義を確立するために、以下の内容で授業を進める。なお、毎授業終了前に学修した内容の要約、感想、疑問点などのワーク・シートに記入して提出する。ワークシートは次回の授業の最初に返却する。						
1. 教育学の概念 2. 教育の本質 3. 教育制度 4. 教育課題						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
「教職入門」「教育課程論」。予習・復習をしっかりと行うこと。						
教科書				参考書・リザーブブック		
書名：『教育原理』 著者名：坂越正樹・湯川秀樹・湯川嘉津美・神長美津子編著 出版社：光生館				なし		
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	教諭・保育士として必要な専門知識について理解できる。				◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの発達に関する知識、教師の職務について基本事項を理解できる。				○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観、望ましい教師像について、理解できる。				○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	真摯に学修に取り組み、教育現場などでの基本的な課題を理解できる。				○
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。				◎
	② 働きかけ力	授業中の私語を注意することができる。				○
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	課題解決が難しい事例研究において、新しい解決策を見つけることができる。				◎
	② 計画力					
	③ 創造力					
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べた事柄について、十分に説明できる。				◎
	② 傾聴力	他の人の意見をしっかりと聴き、そのことについてコメントができる。				◎
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性	授業に遅れず出席できる。				○
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を体現できる。				◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30				20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50							50
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				30					30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								20	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
教育学の全般にわたる知識を獲得するとともに、それらを有機的に関連させて、現代の教育問題を分析し、課題を指摘することができる(80%以上)。					教育学の全般にわたる知識を獲得するとともに、現代の教育問題を指摘することができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	教授・陶冶・訓育とは 「教育」の語源：養育から教育へ（教育の基本的概念）	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【復習】 ・本講義の目標を理解し、学習計画をたてる。 ・配布資料を熟読し、教育学概論(初等)とは何かを理解する。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価			
第2回 ／	教育とは・・・教育の語義 教育の目的を考える(教育の基本的概念)	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第3回 ／	社会と教育（教育の基本的概念）	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第4回 ／	教育の必要性と可能性・・・人間と環境、野生児の研究 (教育に関する様々な思想)	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第5回 ／	第1章 教育とは・・・【プロジェクト学習】（教育に関する歴史） 教育の語義 社会と教育 人間と環境 野生児の研究 動物学から見た人間の特殊性	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第6回 ／	動物学から見た人間の特殊性（教育に関する様々な思想）	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第7回 ／	第6章 近代学校教育の成立と展開・・・【プロジェクト学習】 (教育に関する歴史) 「学制」の実施 「諸学校令」の制定 「教育勅語」の制定 小学校令の改正 と義務教育制度の確立戦後の教育改革	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第8回 ／	近代教育の成立（教育に関する歴史）	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第9回 ／	教育的関係における教えることと学ぶこと	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第10回 ／	教えることの復権 (1)学習と教育 (2)障壁としての教育者	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第11回 ／	教育と福祉 子どもの権利としての教育と福祉 子どもの権利条約	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第12回 ／	生涯学習社会と教育 生涯学習とは	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第13回 ／	第9章 教育の実践・・・【プロジェクト学習】 教育基本法、学校教育法、「生きる力」の考え方、教え方や学び方の質と 「資質・能力の育成」、幼稚園教育における育みたい資質・能力、教育課程の 基準	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第14回 ／	第10章 特別支援教育・・・【プロジェクト学習】 特別支援教育と障害について 特殊教育から特別支援教育へ 特別支援教育に変わったきっかけ 幼児期の特別支援教育 特別支援教育の今	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
第15回 ／	まとめ:教育とは	講義・事例研究 講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・授業の前に教科書を読んでおく。	45
	授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価		【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	
試験	最終試験あり (テスト配点 50 点満点、 授業態度点 50 点満点 の 合計 100 点満点 で成績判定をすること。※第一回目の授業は最終試験の注意事項も実施する)			
注意	【プロジェクト学習】 ・・・この学習時には必ず教科書が必要であるため、持参することを忘れないように(忘れると学習ができなくなるため大幅な減点となる)			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育の基礎的理解に関する科目 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育史 History of Education	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>歴史上に現れた様々な教育思想、(特に初等教育)、教育制度について通史的に概観する。教員採用試験の教職教養分野において、教育史に関する試験はある程度の割合を占めている。試験対策を視野に入れた授業を行う。</p>
--------	---

キーワード	西洋教育史 日本教育史	学修教育目標	① 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付ける。 ② 多様な教育の理念と関わり、過去から現在に至るまでの教育及び学校の変遷を理解できる。 ③ 教育に関する思想を理解できる。
-------	----------------	--------	---

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>教材をPDF等の形式で配信するので、インターネット接続可能なノートPC、iPad、スマートフォン等を準備しておくこと。大きな画面のノートPCやタブレットをすすめる。西洋古代から現代にいたるまでの主要な教育思想家をとりあげ、その教育思想(特に初等教育)を概観する。また日本の教育史も取り上げる。</p>

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>教職の専門科目すべてに関連する。</p>

教科書	参考書・リザーブドブック
なし	書名：『西洋の教育の歴史と思想』 著者名：山崎英則・徳本達夫 編 出版社：ミネルヴァ書房 書名：『近現代教育史』 著者名：柴田義松・斉藤利彦 編 出版社：学文社

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	歴史上の重要な教育思想に関する知識を身につけることができる。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	○
	② 働きかけ力	集団や組織の中でリーダーシップを発揮し、他者や組織を動かしながら目標達成に向けて働きかけることができる。	△
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。	△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとすることができる。	△
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにし、優先順位をつけて計画を立てることができる。	○
	③ 創造力	様々な知識・技能等を組み合わせ、問題の解決に対して新たな方法を考えることができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分の意見を分かりやすく整理し、相手に理解してもらうように的確に伝えることができる。	○
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引きだすことができる。	○
	③ 柔軟性	自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し、他人の意見やアドバイスを受け入れ、自己向上につなげようとすることができる。	○
	④ 状況把握力	全体に及ぼす影響を意識し、自分の置かれている環境や状況を把握し、どのような役割が求められるのかを理解する(自分の役割を理解する)ことができる。	○
	⑤ 規律性	規律や礼儀をはじめ、社会人としてのルールや約束を守り、適切な態度・言動をとることができる。	○
	⑥ ストレスコントロール力	ストレスを感じる状況が生じた時、原因に対して適切な対処方法を理解し、ポジティブ(積極的)に行動することができる。	○
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のためにいかそうとすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			41		30				29	100
評価 の 指標	知識に関する評価		11		10				4	25
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15		10				5	30
	チームワークに関する評価								10	10
	関心・意欲に関する評価		15		10				10	35
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
授業で学んだ教育史の様々な知識を、教育実習等で授業を行う際あるいは指導案を作成するときに想起し、応用して、使うことができる。					教育史の様々な知識を身につけて、教員採用試験の勉強に役立てることができる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 1. 古代ギリシアの教育 (1) アテネとスパルタの教育	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第2回 /	(2) ソクラテスの教育思想	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第3回 /	2. 古代ローマの教育 3. 中世キリスト教社会の教育	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第4回 /	4. 近世の教育思想 (1) コメニウスの教育思想①	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第5回 /	(1) コメニウスの教育思想②	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第6回 /	(2) ロックの教育思想①	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第7回 /	(2) ロックの教育思想②	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第8回 /	(3) ルソーの教育思想①	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第9回 /	(3) ルソーの教育思想②	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第10回 /	5. 近代の教育思想 (1) ペスタロッチの教育思想	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第11回 /	(2) フレーベルの教育思想	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第12回 /	(3) ヘルバルトの教育思想	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第13回 /	6. 現代の教育思想 (1) デューイの教育思想 (2) その他の教育思想家	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第14回 /	7. 日本の教育史①	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			
第15回 /	8. 日本の教育史②	講義とディスカッション	TGU e-Learning「課題」を使用してレポート提出。	15
	My TGU.net のWeb 教室やTGU e-Learning を利用したディスカッション等への参加・内容			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育の基礎的理解に関する科目 教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職概論 Introduction to Teacher Education	2単位	必修	講義	1年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	教育職員免許法施行規則で定められた「教職に関する科目」の「教職の意義等に関する科目」に対応する教職課程の必修科目である。 ① 「教職入門（初等）」において、初等教育の教員個人の職務内容を理解し、教員として働く意欲を高めることを学修した上で、教育に関する法令を詳しく理解し、それに基づく教職のあり方（服務及び身分保障、研修等）を理解することを目的とする。 ② 学校は法令に基づいた教育活動を展開することを目的とした一つの組織体であり、「組織」と学校経営の視点に立ち、組織の中の一員としての責任感と使命感のある教職を理解することを目的とする。 ③ 教職への道に進む上で、最近の教育改革の動きを認識して、新しい学校づくりをするための教育評価の概要を理解することを目的とする。	
	キーワード	教職の意義・学校法令・教職の特性 アクティブ・ラーニング

学修教育目標

- ① 学校園という組織の中での責任感と使命感のある教員のあり方を理解できる。
- ② 教育法令に基づき、学校経営の取り組みや学校改革の動きを理解できる。
- ③ 学校づくりをするための教育評価の概要を理解できる。

授業科目の概要及び学修上の助言

教職科目の意義や教員養成の歴史を踏まえて、教育に関する基本的な用語を理解したうえで、受講生の教職志望理由を確認する。また、新学習指導要領においても、教員養成課程におけるアクティブ・ラーニングの重要性が説明されており、受講生自身の積極性や主体性を重視したい。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

新学習指導要領では、教員養成課程でも「主体的・対話的で深い学び」を求めている。また、「いじめ対策防止推進法」第18条では、「いじめ防止等のための対策が専門的知識に基づき適切に行われるよう教員の養成及び研修の充実を通じた教員の資質の向上」が明記されており、いじめ問題を含めた学校教育の課題について、受講者が主体的に問題意識を持つことが要求される。

教科書

参考書・リザーブブック

書名：『教職入門 概論』改訂版
 著者名：梨木 昭平
 出版社：三恵社

書名：『新しい時代の教職入門』
 著者名：秋田喜代美・佐藤学
 出版社：有斐閣アルマ
 書名：『教育キーワード137』
 著者名：
 出版社：時事通信社

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	学校法令を含め、学校教育に関する基本知識を理解する。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	教育実習での講話を想定して、話し方や伝え方の技能を身につける。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの発達に関する基本的用語を理解する。	△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子ども同士のいじめ問題に対応できる技能を身につける。	◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	教職志望理由や教育実習に向けての抱負を発表することができる。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	実際の教育の状況を踏まえて学校現場に立ち向かう熱意を持つ。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	教職に対する主体的な日常的な興味関心を継続する。	○
	② 働きかけ力	教職に対する主体的な日常的な問題意識を継続する。	○
	③ 実行力	教職に対する主体的な日常的な興味関心を発表する。	◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	教育情勢に対する主体的な日常的な興味関心を継続する。	○
	② 計画力	教育情勢に対する主体的な日常的な興味関心を記録する。	◎
	③ 創造力	教育情勢に対する主体的な日常的な興味関心を文章にまとめる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	教育情勢に対する主体的な興味関心を他者と交換する。	◎
	④ 状況把握力	教育情勢に対する主体的な興味関心を整理する。	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	自分自身の道徳的教育観を確認する。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45	20	5	20		10		100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	15	5					55
	技能に関する評価			5		5				10
	応用力に関する評価		10			15				25
	チームワークに関する評価							5		5
	関心・意欲に関する評価							5		5
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>教育公務員特例法等を踏まえた教職の特性、校務分掌を中心とした教職に関する用語、教務、生徒指導、保健指導、キャリア教育等の教育用語、学校教育法における校長、教頭等の職務がよく理解され明確な教職志望理由を公表できる。</p>					<p>教育公務員特例法等を踏まえた教職の特性、校務分掌を中心とした教職に関する用語、教務、生徒指導、保健指導、キャリア教育等の教育用語、学校教育法における校長、教頭等の職務がおおむね理解され教職志望理由を公表できる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	教育法令について（1） 教育法令の範囲と体系、日本国憲法	講義	<復習>シラバスを読み、本授業の内容と目的を確認 授業用ノートを中心に講義で得た知識を確認	45
	教育法令の範囲と体系の理解度			
第2回 /	教育法令について（2） 教育基本法、学校教育法、教員免許法、地教行法 等	講義	<予習>本授業を履修した理由を確認 <復習>「教員に求められる資質」について自分の考えをまとめる	45
	法令を踏まえての学校の特性の理解度			45
第3回 /	教員の服務と身分保障（1） ー教育公務員としての教員ー 法令にもとづく教育公務員のあり方	講義	<予習>「教員の服務」について考える <復習>「教員に求められる資質」について発表できる準備をする	45
	学校教育に関わる制度の理解度			45
第4回 /	教員の服務と身分保障（2） ー教育公務員としての教員ー 任用と勤務条件等	講義	<予習>「教員の身分保障」について調べる <復習>「教員の服務」について教育法令と関連づけて考える	45
	教育公務員の特性の理解度			90
第5回 /	教員の服務と身分保障（3） ー教育公務員としての教員ー 服務	講義	<予習>教員の身分保障の歴史を調べる <復習>教育公務員特例法についてまとめる	45
	教育公務員の特性の理解度			45
第6回 /	教員の資質と能力（1） 生徒の求める教師像	講義	<予習>教員の資質能力の形成を調べる <復習>教育公務員の特性をまとめる	45
	教職の特性を踏まえての志望理由の説得力			45
第7回 /	教員の資質と能力（2） 保護者から見た望ましい教員	講義	<予習>校務分掌について調べる <復習>小テスト準備	45
	経験・年齢による職務変化の理解度			45
第8回 /	教員の資質と能力（3） 同僚の求める望ましい教員の姿	講義	<予習>第7回までの内容を確認する <復習>小テスト	45
	校務分掌関係の用語の理解度			45
第9回 /	教員の資質と能力（4） 教育行政機関の求める教員像	講義	<予習>校長について調べる <復習>分掌の任務について確認する	45
	校務分掌の内容の理解度			45
第10回 /	教員の資質能力の形成と研修 法令研修・教員のキャリアステージ	講義	<予習>学校経営・学校評価について調べる <復習>校長の任務を確認する	45
	カリキュラムマネジメント・日本の学校教育の特色の理解度			45
第11回 /	学校組織 校務分掌組織、職員会議、主任制度等	講義	<予習>教育改革について調べる <復習>教職の意義レポートの構想	45
	学校評価制度の理解度			45
第12回 /	学校経営について 校長のリーダーシップ、学校経営目標・学校教育目標等	講義	<予習>21世紀の改革について調べる <復習>従来の教育改革を確認	45
	最新の教育情勢の理解度			90
第13回 /	学校評価について 学校評価の目的・意義・役割・法制について	講義	<予習>採用試験について調べる <復習>最近の教育改革を確認	45
	最新の学習指導要領の理解度			45
第14回 /	まとめ 確認と振り返り	講義	<予習>これまでの講義内容を確認 <復習>ポートフォリオを完成	45
	採用試験における時事問題領域の理解度			45
第15回 /	全体のまとめ	講義	授業全体の総まとめ・テスト	90

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育の基礎的理解に関する科目 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育社会学 Sociology of Education	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	教育者として必要な、教育に対する社会的な見方・とらえ方を学ぶ。子どもが初等教育を通して社会の中でどのように位置付けていくのかを学ぶ。また、近年の教育問題に焦点を当て、社会学的手法で分析・考察していくことにより理解する。	
	キーワード 社会学的手法 批判的思考力 教育問題 エビデンス	学修教育目標 (1) 社会構造の中で教育をとらえ、その機能が理解できる。 (2) 教育の場における様々な問題を社会学的手法で分析・考察し、理解できる。 (3) 学校と地域の連携について、その意義や協働の仕方を事例に基づき理解できる。 (4) 学校保健安全法に基づく学校での危機とその管理について理解できる。

授業科目の概要及び学修上の助言

この授業では、「教育」「社会」「学校」の関連について知識を得るというよりも、素朴な疑問をもとにその社会的背景や影響について考えることを重視したい(考える訓練)。そのために、テキストを資料にして各グループで協力して考え、提案と発表を行い、全体のディスカッションにより考えを深めたい。緊張感を持って、真面目に授業に向かうことが必要。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

本講義は、教育学に関わる専門科目である。すでに教育学関連の基礎的な関連科目、例えば「教職入門」「教育学概論」「教育心理学」といった諸科目を履修している。将来自分が教えるかもしれない子どもたちに恥じぬよう、真摯な態度で、真面目に授業に向かうこと。

教科書	参考書・リザーブブック
書名：『現代社会と教育』 著者名：汐見稔幸 監修 出版社：ミネルヴァ書房	有本 章他 『教育社会学概論』 ミネルヴァ社 若槻健・西田芳正編 『教育社会学への招待』 大阪大学出版会 荻谷剛彦他 『教育の社会学(新版)』 有斐閣 文部科学省 『学校安全(最新版)』 渡邊正樹編著 『学校安全と危機管理 改訂版』

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標(※1)	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	教育をめぐる必要な専門知識を理解できる。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	教育をめぐる必要な技能を理解できる。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	教育をめぐる諸問題の理解や考察を深めることができる。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	真摯に学修に取り組み、教育現場などで課題解決のための仕組みを理解できる。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標(※2)	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。	◎
	② 働きかけ力	授業中に自ら進んで質問することができる。	◎
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	プレゼンテーションのテーマを発表時の情報伝達内容を意識して決定することができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	自分で調べた事柄について十分に説明できる。	◎
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントできる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力	出されたチーム課題に対して、チームで意思統一を図ることができる。	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を体現できる。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			45		5	20			30	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35							35
	技能に関する評価		10			5			10	25
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価				5	5			20	30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> ・教育者として必要な、教育に対する社会学的な見方・とらえ方を十分理解している(80%以上)。 ・必要な知識の理解と知識等を活用した実践力を十分つける(80%以上)ことができる。 					<ul style="list-style-type: none"> ・教育者として必要な、教育に対する社会学的な見方・とらえ方を理解している。 ・必要な知識の理解と知識等を活用した実践力をつけることができる。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	オリエンテーション 教育社会学とは、社会学的方法について	講義・質疑応答 グループ編成	【復習】 本講義の目標を理解し、学習計画を立てる。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			
第2回 ／	社会の中の教育（1） 教育環境としての地域社会の役割と変化	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教育環境としての地域社会の役割と変化」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第3回 ／	社会の中の教育（2） 学校のある社会	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学校のある社会」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第4回 ／	社会としての学校（1） 子どもの社会学、教室	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学校教育の発展過程と現状」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第5回 ／	社会としての学校（2） 教育問題、教師の理想と現実	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教育改革」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第6回 ／	学校と地域の連携の歴史	講義・質疑応答 グループ討議	【予習】 教科書「子どもの社会学」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第7回 ／	学校と地域の連携による効果 子ども、学校（教員）、地域住民にとっての効果	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教室」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第8回 ／	学校と地域の連携の目指す姿	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教育問題」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第9回 ／	コーディネートに必要な基礎的な知識	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「教師の理想と現実」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第10回 ／	学校安全・危機管理の概要 学校保健安全法等	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学力問題(学力低下と学力格差)」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第11回 ／	子どもを取り巻く危険と事件・事故	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「地域社会と学校」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第12回 ／	学校安全・危機管理の進め方	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学力向上と格差是正のための教育」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第13回 ／	体育・スポーツ活動と負傷・障害	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「ジェンダーと教育」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第14回 ／	学校安全・危機管理における教職員の役割	講義・質疑応答 グループ討議 課題の提示	【予習】 教科書「学歴社会」を読む。 【復習】 グループ討議を振り返り、内容を整理する。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			45
第15回 ／	まとめ 確認と振り返り	講義・質疑応答 グループ討議	【予習】 教科書「社会構造と教育」を読む。 【復習】 ・グループ討議を振り返り、内容を整理する。 ・これまでの講義内容を総復習する。 ・ポートフォリオを完成させる。	45
	授業終了前、本授業のコメント・シート記載提出評価			90

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育の基礎的理解に関する科目 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学 Educational Psychology	2単位	必修	講義	1年次	秋学期
授業科目の学修教育目的・目標						
学修教育目的	<p>教育心理学は、学校や家庭、さらに社会における人格の発達に及ぼす諸要因を心理学的に解明し、幼児・児童の心身の望ましい発達や人格形成を目指すものである。教育に関連する諸事象、教授・学習過程、評価、発達、人格・適応領域、並びに集団における人間関係や障がいのある子ども達への理解、発達心理学領域もその対象となる。また、人間そのものの本質を理解することは教育心理学の重要な課題の一つでもある。「人間とは?」「生きるとは?」これらの視点も含めて、広く教育心理学を学んでいくことを目的とする。</p>					
キーワード	教授・学習過程 評価 発達 人格 障がい 人間関係	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴が理解できる。 ・幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方が理解できる。 			
授業科目の概要及び学修上の助言						
<p>教師になるために必要な心理学の理論を中心に学ぶ。本講義は教職関連科目であるため、15回の授業を通して、授業態度や物事に取り組む姿勢についても身に付けていく必要がある。「教師になる」という高い目的意識が求められる科目であることを自覚して履修すること。主体的な学びとなるよう、各自授業ノートを準備し、学びに活かしていくことが望ましい。さらに、講義形式ではあるが、ペアワークやディスカッションを取り入れながら授業を進めていくため、積極的な姿勢で授業に臨むこと。</p>						
他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能						
「教育相談の基礎Ⅰ」と関係づけて学んでいくことで学びが深くなっていきます。						
教科書			参考書・リザーブブック			
プリント配布			書名：『精選 コンパクト教育心理学』 著者名：北尾倫彦・中島実 他 出版社：北大路書房			
No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。					
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。					
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	教育心理学（子どもの望ましい発達や人格形成）に関する知識を身につけることができる。				◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。					
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。					
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。					
授業科目における社会人基礎力の育成目標						
分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）				
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	質問に積極的に答えることができる。				○
	② 働きかけ力	集団や組織（チーム）の中でリーダーシップを発揮し、他者（チームメイト）や組織を動かしながら目標達成の働きかけを行うことができる。				△
	③ 実行力					
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し現状を把握する中で、課題を抽出し問題を解決することができる。				○
	② 計画力					
	③ 創造力	成功イメージを常に意識しながら、新しいものを生み出すためのヒントを探ることができる。				△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力					
	② 傾聴力					
	③ 柔軟性					
	④ 状況把握力					
	⑤ 規律性					
	⑥ ストレスコントロール力					
4. 倫理観	① 倫理性	私語をしないで授業を受けることができる。				○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の場合で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50						50	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35							35
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15						20	35
	チームワークに関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価								25	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>子どもの望ましい発達や人格形成に関する知識を十分に理解している。 子ども・保護者への対応に役立つカウンセリングの知識や技法を十分に理解している。 各項目の理解度が80%以上である。</p>					<p>子どもの望ましい発達や人格形成に関する知識を理解している。 子ども・保護者への対応に役立つカウンセリングの知識や技法を理解している。 各項目の理解度が60%～80%である。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	オリエンテーション - 教育心理学とは コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第2回 ／	発達と教育および発達の諸理論 - ハヴィガーストとエリクソンの発達課題 - コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第3回 ／	発達の諸理論 - ピアジェ・フロイト・ヴィゴツキーの理論 - コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第4回 ／	心身の発達（1） 幼児期から青年期における心身の発達の概要 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第5回 ／	心身の発達（2） 幼児期から青年期の運動発達、言語発達、認知発達及び社会性 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第6回 ／	心身の発達（3） 自己概念の発達と学校教育。社会性や道徳性の発達と学校教育 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第7回 ／	心身の発達（4） 障がいのある幼児・児童・生徒の心身の発達及び学習の過程 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第8回 ／	人格・個性・適応 幼児・児童の人格形成や個性 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第9回 ／	学習のメカニズムと動機づけ（1） 主体的学習を促す効果的な学習法及び教授法 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第10回 ／	学習のメカニズムと動機づけ（2） 集団における人間関係、動機づけとやる気の持続 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第11回 ／	学習のメカニズムと動機づけ（3） 教育評価の種類と方法 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第12回 ／	学校文化 家庭での学習と学校での学習の違いと指導法 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第13回 ／	カウンセリングの知識や技法を活かした児童・生徒理解（1） カウンセリングの知識と技法 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第14回 ／	カウンセリングの知識や技法を活かした児童・生徒理解（2） 実践事例からみる指導法 コメントシート	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
第15回 ／	まとめ 確認と振り返り	講義・質疑応答	復習：復習：講義内容・試験範囲の振り返り	30

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育の基礎的理解に関する科目 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育 Special Needs Education	1単位	必修	講義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>通常の学級にも在籍をしている発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害等により、特別の支援を必要としている幼児、児童が授業において学習活動に参加をしている実感や達成感を持ちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるようにそれぞれの困難さや特性、発達のみちすじなどについて理解を深め、関係機関や他の教員と連絡、連携をとり、組織的に支援をしていくことのできる知識、技術、支方法について理解をし、実践ができるようにする。</p>					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	発達障害 特別の教育的ニーズ 特別支援教育コーディネーター 発達のみちすじ	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童に対する支援の方法について例示をすることができる。 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけを理解している。 不登校や社会的マイノリティ等、障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童の把握や支援の意義と方法を理解している。 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の支援計画及び、個別の教育支援計画を作成する意義と方法を理解している。 特別支援教育コーディネーターの役割と連携の重要性について理解をしている。 			
-------	--	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>特別支援教育の現状を概説し、発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害のある幼児、児童及び生徒が、発達の観点からの教育的支援をなぜ必要とするのかを様々な角度から論じる。 これまでの特殊教育と特別支援教育の違いを、歴史的背景を概観しながら理解するとともに、「障害」のある幼児、児童及び生徒の支援を充実させていくために、「障害」についての基本的な知識、支援方法について習得する。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

特になし						
------	--	--	--	--	--	--

教科書	参考書・リザーブブック
学研「教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト：気付き、工夫して、つなげる」	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。		
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	特別な教育的ニーズのある児童について理解し、支援の意義と方法を学びながら、教諭としての使命感や責任感を学ぶ。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	自分の強み・弱みを把握するとともに、支援に必要な児童の強み・弱みを把握し、主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	学校現場で起きている事象について認識し、情報収集や分析ができる。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	グループワークやペアワークで、課題の内容を把握し話そうとすることを順序立てて伝えることができる。	○
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	グループワークやペアワークで、意見の異なる相手の背景や事情を理解することができる。	○
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	児童の意思決定や権利を守りながら、支援をすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50			20			30	100
評価 の 指標	知識に関する評価		45						20	65
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価								10	10
	チームワークに関する評価					10				10
	関心・意欲に関する評価		5			10				15
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>特別支援教育の現状を把握し、その意義を充分理解している。 特別な教育的ニーズのある児童の学習上又は生活上の困難とその対応を充分理解している。 特別支援教育に対して自分の意見を持ち、相手に伝わるように表現することができる。 各項目の理解度が、80%以上である。</p>					<p>特別支援教育の現状を把握し、その意義を理解している。 特別な教育的ニーズのある児童の学習上又は生活上の困難とその対応を理解している。 特別支援教育に対して自分の意見を持ち、表現することができる。 各項目の理解度が、60～80%である。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	特別支援教育とは・特別支援教育の歴史・制度 （発達障害支援法を軸に）	講義、演習	復習：授業内容に関するコメント用シート	15
第2回 /	特別なニーズのある子どもたちの地域生活支援 －学校・家庭・地域・関係機関との連携による支援	講義、グループワーク	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15
第3回 /	発達障害児・自閉スペクトラム障害児の理解と支援 －知的障害児の理解と支援	講義、グループワーク	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15
第4回 /	肢体不自由児、病弱児の理解と支援 －視覚障害、聴覚障害児の理解と支援	講義、演習	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15
第5回 /	社会的マイノリティの子どもたち（外国人、弱者 貧困）や不登校の子どもたちの実際とかかわり～特別な教育的ニーズのある子ども、家庭の支援～	講義、演習	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15
第6回 /	支援の実際を考える～個別教育支援計画と指導について	講義、演習	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15
第7回 /	支援の実際を考える～声掛け 教材作り～	講義、グループワーク	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15
第8回 /	教室でともに育つための指導について －困っている子を困った子にしない学級づくりについて考える	講義、グループワーク	予習：前回の復習 復習：授業内容に関するコメント用シート	30 15

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育の基礎的理解に関する科目 教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論 Curriculum Theory	2単位	必修	講義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	初等教育における教育課程の重要性を理解し、学校・園での実際の運用や教育行政の法制上、実務上の関与について学修する。 本学修を通して、教育課程編成全体にわたる視野を持ち、教育課程編成に取り組むことができる小学校教師としての基礎力を養成する。
--------	--

キーワード	教育課程の編成方法、指導計画、教師としての使命感・倫理観	学修教育目標	教育課程の原理、編成の方法を学び、幼稚園教育・小学校教育を推進するために必要な、実践に即した教育課程編成に関わる基礎的な素養を身につける。 現行『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』の「領域」「目標」「内容」がわかり、幼稚園教諭・小学校教諭として、教育課程作成に取り組もうとする意欲を持つことができる。 学習指導要領等に基づいたカリキュラム・マネジメントの意義や重要性、カリキュラム評価を理解することができる。
-------	------------------------------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

教育課程、カリキュラムとは、学校の教育内容の組織を指し示す。それは望ましい学習が展開されるように配慮して作成される学校の教育内容の組織のことである。本講義では、教育課程とは何か、幼稚園と小学校の教育課程はどのように編成されるか、その編成の違いを明らかにしながら、子ども理解に基づいた教育課程はどのような特徴をもつか等について、基本的な理解ができるようになることを目指す。教育現場での経験に基づき、小学校教師に求められる子ども理解と教材研究の重要性を認識する。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「教職入門」「教育学概論」の理解につながる。

教科書	参考書・リザーブブック
なし 授業開始時に学修内容に関するワークシートを配付する。	なし

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	『幼稚園教育要領』、『小学校学習指導要領』及びそれらの解説書の主な内容を知り、カリキュラム・デザインの違いを説明できる。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	子どもの実態や地域の特性を生かした教育・保育内容の具体例を指導案として作成することができる。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの発達に関するピアジェやヴィゴツキー等の代表的な理論を知って、子ども一人ひとりの理解に活かすことができる。	△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもの発達特性や個人差を理解し、自発的な学びや育ちを促すための指導・援助ができる。	△
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	小学校教師としての使命感、責任感、倫理観を持って実習や学校支援ボランティアなどに臨むことができる。	△
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	指導計画を作成し、自らの保育・授業の振り返りと評価に基づき、指導力の改善に努める。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	知識や理解を深めるため、授業の予習や復習を積極的に行っている。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自らの学びを振り返り、知識や理解の不十分な点に気づくことができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	集団活動において自らの役割を見出し、積極的に活動に参加することができる。	◎
	② 傾聴力	チーム内の多様な意見に耳を傾け、チームをまとめることができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性	日頃から社会生活上の基本的なルールを守っている。	○
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	教師としての使命感を持って教育実習や学校支援ボランティアに臨んでいる。	◎

※1 ◎授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		30				20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		50							50
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価				30					30
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価								20	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>教育課程とは何か、小学校や幼稚園の教育課程はどのように編成されるか、その違いはどこにあるのか、わが国の教育課程は歴史的にどのように変遷してきたか、現在の小学校と幼稚園の教育課程はどのような特徴をもつか等について理解し、説明することができる。</p>					<p>教育課程の意義と目的について理解し、教育課程及び学習指導要領編成の内容について説明することができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 ／	教育課程論オリエンテーション—教育課程とは— 授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価	講義・グループワーク・質疑応答	【復習】 ・本講義の目標を理解し、学習計画をたてる。 ・配布資料を熟読し、教育課程論(初等)とは何かを理解する。	30
第2回 ／	「教育課程」の定義・公教育の原理、教育基本法 ①要約の学習 授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する	30 30
第3回 ／	公教育制度を構成している教育関係法規 授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
第4回 ／	学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け ②要約の学習 授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
第5回 ／	学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的 授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
第6回 ／	学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景 授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
第7回 ／	教育課程が社会において果たしている役割や機能 授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
第8回 ／	教育課程編成の基本原則 授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
第9回 ／	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法 授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
第10回 ／	単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童及び生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画の検討 授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
第11回 ／	学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性 授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
第12回 ／	カリキュラム評価の基礎的な考え方 授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
第13回 ／	教育課程の基本構造、教育課程編成の主体 ③要約の学習 授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
第14回 ／	学力と教育評価 授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
第15回 ／	まとめ 教育課程の目指すもの・教師としてあるべきもの 授業終了後、本授業のワーク・シート記載提出評価	講義・グループワーク・質疑応答	【予習】 ・前回の復習と授業の前にシラバスを読んでおく。 【復習】 ・グループワークでの事例の内容を復習する。	30 30
試験	最終試験あり （テスト配点50点満点、授業態度点50点満点の合計100点満点で成績判定をする）			
注意	【①.②.③ 要約の学習】 … この学習時には長文を要約する力が必要である。…この学習は1年次(教育学概論)で実施した「プロジェクト学習」の応用編となる。			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法論 Methodology of Education	1単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	本科目は授業を展開する上で技術的な手法や原理を学ぶものであり、歴史的背景を踏まえて、今日の教育システムが抱える問題点（特に初等教育）を考察するものである。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	教育方法の歴史及び理論	学修教育目標	社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、技術に関する基礎的な知識・技術を身に付ける。			
-------	-------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

教育には、あらゆる分野の知識や知恵が役立つことを知ってほしい。						
---------------------------------	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「教育方法論Ⅱ（初等）」と関連する。						
--------------------	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
書名：『教育方法論【改訂版】』 著者名：谷田貝公昭・林邦雄・成田國英編 出版社：一藝社			書名：『小学校学習指導要領解説・総則編（最新版）』 著者名：文部科学省 出版社：東洋館出版社			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	教育の本質を理解する。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	教育の目的と手段の関係を理解する。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	年齢ごと、学年ごとの子どもの特性を理解する。	△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	学習指導案作成などを通して発達段階に応じた対応を理解する。	△
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	教師としてあるべき姿を追求する。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	教育実習を想定しながら、実践への活用法を考える。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	教員志望者として求められるものをつかめるようにする。	◎
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。	○
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	教育における課題を見つけ、その難題に向き合うための基礎を養う。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	他者の話をよく聴き、様々な資料にふれることで多様な状況、相手の気持ちを理解する。	◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	◎
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	多様な価値観を知り、判断し、行動できるようにする。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15	15			5	10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	15	5					55
	技能に関する評価				10					10
	応用力に関する評価		20							20
	チームワークに関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価							5	5	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
子どもの発達段階に応じた指導を、意図的、計画的に実践できる。					子どもの年齢、学年に応じた学習指導や生徒指導、諸活動を構想できる。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	オリエンテーション 教育方法論の意義	講義・質疑応答	【復習】 シラバス・テキストを確認する	45
第2回 /	学びの本質 学びの構造と様態	講義・質疑応答	【復習】 ・配布資料をよく読み直しておく ・教育の目的を確認しておく	45
第3回 /	教育方法の基礎理論 教育方法の歴史の変遷の概観	講義・質疑応答	【復習】 配布資料とテキストを読み直しておく	45
第4回 /	教育評価 教育評価の機能、教育評価の概観	講義・質疑応答 ディスカッション	【予習】 小・中・高校時の通知表の形式を想起しておく 【復習】 配布資料とテキストを読み直しておく	45
第5回 /	教育方法のあり方 －主体的、対話的な学習を引き出す教育方法	講義・質疑応答 ディスカッション	【復習】 配布資料とテキストを読み直しておく	45
第6回 /	学習指導案の作成と模擬授業 －学習指導、教育方法等を踏まえた学習指導案の作成	講義・質疑応答 ディスカッション	【予習】 「学習指導案」作成について考えておく 【復習】 「学習指導案」作成	45
第7回 /	対象となる児童及び生徒等への理解 －授業等を構成する基本的な要素	講義・質疑応答	【予習】 自分が小・中学校等で過ごした学級を想起しておく	45
第8回 /	まとめ 確認と振り返り	講義・質疑応答	【復習】 これまでの内容を確認し、自分なりの教育観を想起する	45

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育における ICT 活用 ICT Utilization in The Education	1 単位	選 択	講 義	2 年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	情報通信技術を効果的に活用した学習指導や、校務の推進の在り方、並びに児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。					
--------	---	--	--	--	--	--

キーワード	情報通信技術、教育の情報化、情報活用能力、デジタル教材、個別最適な学び、協働的な学び、教育データ、情報モラル、校務支援システム、ICT 支援員、教育情報セキュリティ、遠隔・オンライン教育	学修教育目標	情報通信技術の活用の意義と理論を理解し、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解するとともに、児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。			
-------	---	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

情報通信技術を活用した教育の「理論」と、各学校でどのように実現するかを説明する「方法」をバランスよく取り上げる。また、ICT を活用する授業や校務がイメージできるように、可能な限り実践例を示しながらわかりやすく説明する。また、本科目の授業においても、「TGU e-Learning」を使いながら情報通信技術を活用した授業を展開していき、児童生徒「1 人 1 台端末」環境での授業や教育支援を構想し、実施の準備ができるようにする。グループワークや探究的な学習を取り入れることから、能動的に学修する態度を求める。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

各学部で開講されている情報通信技術関連の科目を積極的に学修し、自ら情報通信技術を身に付けて教育に活用できるように準備しておくこと。また、教育の基礎的理解に関する科目の教育学概論、教職概論、教育心理学、および教育方法論で学習する内容に関する知識を持つことが望ましい。

教科書

参考書・リザーブブック

書 名：情報通信技術を活用した教育の理論および方法 著者名：西野和典編著 出版社：実教出版	書 名：教育の情報化に関する手引（追補版）（令和 2 年 6 月） 著者名：文部科学省 出版社：文部科学省
---	---

No.	学 科 教 育 目 標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	ICT を授業や校務等に活用して教育効果を高めることができる。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもの情報活用能力育成に関する知識を身につける。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	子どもの情報活用能力育成に関する技能を身につける。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	ICT を活用して教育現場での課題解決に資することができる。	△

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4 つの力)	能力要素(13 の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	ICT を活用したの教育について、自ら考え、工夫して教育への導入を構想することができる。	○
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	ICT を活用することで可能になる教育の課題を見つけ、解決に向けて ICT の活用について考えることができる。	◎
	② 計画力	ICT を活用した教育を実施するまでの計画を適切に立てることができる。	△
	③ 創造力	ICT の効果的な活用について構想することができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	構想した ICT を活用した教育内容について、わかりやすく説明することができる。	△
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	教員や他の学生からの助言を受け入れ、学習を改善することができる。	△
	④ 状況把握力	児童生徒の状況について把握し、適切に ICT の教育活用を考えることができる。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	自ら適切に情報を取り扱うとともに、情報モラルに関する教育を推進するための基礎的な知識を持っている。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		20			30		100
評価 の 指標	知識に関する評価		30		10			10		50
	技能に関する評価				10			10		20
	応用力に関する評価		10							10
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価		10					10		20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>情報通信技術の活用の意義と理論に関して深く理解し、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について体系的に理解するとともに、児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための基礎的な指導法を身に付け、授業に応用できる準備ができている。 各学修項目の達成度が80%以上である。</p>					<p>情報通信技術の活用の意義と理論を理解し、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解するとともに、児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。 各学修項目の達成度が60%～80%未満である。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	教育の情報化 －情報社会に求められる能力、ICT活用の意義と在り方、教育の情報化の概要 ポートフォリオを入力する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	第1回の授業で ・学修した内容の復習	復習 30
第2回 /	情報活用能力の育成 －情報活用能力の定義、情報活用能力の内容と指導、児童のICT活用の指導法 ポートフォリオを入力する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	第2回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30
第3回 /	ICTを活用した教材開発と指導法 －ICTを活用した学習指導、ICTを効果的に活用した指導事例、ICTを活用した教材開発 ポートフォリオを入力する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。学習者が指導事例を構想し、他学習者と内容を交換し、確認する。	第3回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30
第4回 /	教育データを活用した評価 －教育データの学習評価と指導への活用、教育情報セキュリティの重要性 ポートフォリオを入力する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	第4回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30
第5回 /	情報モラル教育 －情報活用能力としての情報モラル、情報モラル教育のための必要な知識と連携、各教科での情報モラル教育 ポートフォリオを入力する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。学習者が情報モラル教育の指導事例を構想し、他学習者と内容を交換し、確認する。	第5回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30
第6回 /	ICTを活用した特別支援教育 －特別支援教育でのICT活用、特別支援教育でのICT活用の留意点 ポートフォリオを入力する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。	第6回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30
第7回 /	校務の情報化とICT環境の整備 －統合型校務支援システム、校務への活用と推進、ICT環境の整備、外部機関との連携 ポートフォリオを入力する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。学習者がICT環境の整備について、他学習者と情報交換する。	第7回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30
第8回 /	遠隔・オンライン教育 －遠隔・オンライン教育の意義と分類、遠隔教育システムとオンライン学習での学び ポートフォリオを入力する。	講義 PowerPoint スライド等の教材を提示して解説する。学習者が実際にオンラインでの教育活動を体験する。	第8回の授業で ・学修する内容の予習 ・学修した内容の復習	予習 30 復習 30

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法論（初等） Methodology of Education (Elementary)	2単位	必修	講義	3年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	幼児期にふさわしい教育の方法についての理解を深めながら、子どもたち一人一人の主体的な育ちを支える具体的な援助や指導のあり方について理論的・実践的に学ぶ。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	幼児教育 小学校教育 情報機器の活用	学修教育目標	社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技術を身に付ける。			
-------	--------------------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

教育には、あらゆる分野の知識や知恵が役立つことを知ってほしい。						
---------------------------------	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「教育方法論Ⅰ（初等）」と関連する。						
--------------------	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
追って指示する。			書名：『幼稚園教育要領（最新版）』 著者名：文部科学省 出版社：教育出版			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	教育の本質を理解する。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	教育の目的と手段の関係を理解する。	◎
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	年齢ごと、学年ごとの子どもの特性を理解する。	△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	学習指導案作成などを通して発達段階に応じた対応を理解する。	△
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	教師としてあるべき姿を追求する。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	教育実習を想定しながら、実践への活用法を考える。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	教員志望者として求められるものをつかめるようにする。	◎
	② 働きかけ力	協働して問題に取り組むよう他者に働きかけ学修を進めることができる。	○
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	教育における課題を見つけ、その難題に向き合うための基礎を養う。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力	従来の常識や発想を転換し、新しいものや解決策を作り出すことができる。	○
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	他者の話をよく聴き、様々な資料にふれることで多様な状況、相手の気持ちを理解する。	◎
	③ 柔軟性	自らの考えに囚われることなく意見の違いや立場の違いを理解することができる。	◎
	④ 状況把握力	自分と周囲の人々や物事との状況や関係性を理解し、最適な行動をすることができる。	○
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	多様な価値観を知り、判断し、行動できるようにする。	◎

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			55	15	15			5	10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35	15	5					55
	技能に関する評価				10					10
	応用力に関する評価		20							20
	チームワークに関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価							5	5	10
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>子どもの発達段階に応じた指導を、意図的、計画的に実践でき、教育・保育現場で起こりうるあらゆる事態に対処できる。</p>					<p>子どもの年齢、学年に応じた学習指導や生徒指導、諸活動を想定でき、教育・保育現場で起こりうる事態に備えられる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	幼児教育方法の基礎 －幼児期の教育にふさわしい方法	講義・質疑応答	【復習】 配布資料を確認する	45
第2回 /	幼児教育方法の系譜	講義・質疑応答	【復習】 配布資料を読み直す	45
第3回 /	子どもの発達と幼児教育 －3～5歳児の発達特性と教育	講義・質疑応答	【復習】 配布資料を読み直す	45
第4回 /	環境構成と幼児教育 －子どもの主体性と環境、物的環境(情報環境を含む)と人的環境	講義・質疑応答	【復習】 配布資料を読み直す	45
第5回 /	遊びと学習の関係 －なぜ遊びが学習につながるのか、遊びの意義と特徴	講義・質疑応答	【復習】 ・配布資料を読み直す ・遊びの教育的意義を考える	45
第6回 /	遊びの指導 －幼稚園教育要領における遊びの位置づけ、遊びの種類とその展開	講義・質疑応答、ディスカッション	【復習】 配布資料を読み直す	45
第7回 /	生活の指導 －基本的生活習慣の自立に向けた指導、道徳性の芽生えを培う指導	講義・質疑応答	【予習】 就学前に身につけておきたい基本的生活習慣について想起する 【復習】 配布資料を読み直す	45
第8回 /	総合的な活動の指導と展開 －遊びと活動、行事の進め方	講義・質疑応答、ディスカッション	【復習】 配布資料を読み直す	45
第9回 /	幼児教育における様々な形態 －個人の活動とグループ活動、一斉保育と自由保育、チーム保育	講義・質疑応答、ディスカッション	【復習】 配布資料を読み直す	45
第10回 /	個と集団のかかわり	講義・質疑応答、ディスカッション	【復習】 配布資料を読み直す	45
第11回 /	知的好奇心の育成 －知的好奇心を育む基盤としての安定感、知的好奇心を育む保育方法と技術（情報技術を含む）	講義・質疑応答、ディスカッション	【復習】 配布資料を読み直す	45
第12回 /	幼児教育と小学校教育の連携 －教科の学びの萌芽に満ちた遊び	講義・質疑応答、ディスカッション	【予習】 就学前・後の子どもの違いを想起する 【復習】 配布資料を読み直す	45
第13回 /	情報機器とその活用① －電子紙芝居の利用 －マルチメディア（音楽・映像）教材、双方向通信の活用 －インターネット(映像コンテンツ)、ソフト等を利用した教材の使用	講義・質疑応答	【復習】 ・配布資料を読み直す ・これまでの内容を確認しておく	45
第14回 /	情報機器とその活用② －電子紙芝居の利用 －マルチメディア（音楽・映像）教材、双方向通信の活用 －インターネット(映像コンテンツ)、ソフト等を利用した教材の使用	講義・質疑応答	【復習】 ・配布資料を読み直す ・これまでの内容を確認しておく	45
第15回 /	まとめ 確認と振り返り	講義・質疑応答	【復習】 ・配布資料を読み直す ・これまでの内容を確認しておく	45

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段：英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 幼児理解の理論及び方法	幼児理解の理論と方法 Understanding of Theories and Methods of Infant	2単位	必修	講義	1年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	発達心理学、幼児心理学における諸研究の方法と成果を踏まえ、幼児期の心理的側面の発達を中心に知識と理解を深める。 幼児の身体、認知、社会性といった領域で、幼児期においてどのような変化があり、それがどのような方法で研究されているかを、できるだけ多くの実証的研究を踏まえて学修する。					
	キーワード	発達心理学 幼児心理学 実証的研究	学修教育目標	(1) 幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度が理解できる。 (2) 幼児理解の方法を具体的に理解できる。		

授業科目の概要及び学修上の助言

幼児の身体、認知、社会性といった領域で、幼児期においてどのような変化があるのかを理解することと、理解の方法を実証的研究を踏まえ学修するので、求められた時には、積極的に発言すること。
--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「乳児保育」「保育内容（人間関係）」等、乳幼児の発達を理解する科目と関連するので、乳幼児の発達の基礎を理解しておくこと。
--

教科書

参考書・リザーブブック

書名：幼児理解の理論と方法【乳幼児教育・保育シリーズ】 著者名：神長美津子他 共著 出版社：光生館	授業内で適宜指示する。
---	-------------

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	乳幼児の身体、認知、社会性の発達の変化を理解する。	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。		
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	物事に進んで取り組もうとする。	△
	② 働きかけ力	自分だけでなく周りの他者に働きかけ、課題に取り組もうとする。	◎
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	現状の課題に気づき、問題を明らかにし、解決する方法を考える。	○
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力		
	③ 柔軟性	意見の違いや立場の違いを理解する。	△
	④ 状況把握力	自分の置かれている位置を理解し、行動しようとする。	◎
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	保育者としての自覚を持ち、他人のために行動できる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		50					100
評価 の 指標	知識に関する評価		50		50					100
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価									
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価									
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>幼児理解の方法を具体的に理解し、実践事例の中で自らが保育者・教育者としてどのように関わるかをイメージできる。</p>					<p>幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度が理解できる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	幼児理解の意義と理論（1） －幼稚園教育、保育と幼児理解	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評			
第2回 /	幼児理解の意義と理論（2） －「理解する」とは	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第3回 /	幼児理解の意義と理論（3） －幼児の発達や学びの理解－理論と方法	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第4回 /	幼児理解の意義と理論（4） －遊びと幼児理解	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第5回 /	幼児理解の意義と理論（5） －幼児理解を深める保育者の基本的な姿勢	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第6回 /	幼児理解の意義と理論（6） －保幼小をつなぐ理解－幼児理解と児童理解	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第7回 /	幼児理解の方法（1） －幼児理解の目的と方法	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第8回 /	幼児理解の方法（2） －保育の実践のための記録	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第9回 /	幼児理解の方法（3） －クラス集団の理解と指導	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第10回 /	幼児理解の方法（4） －保育者の自己理解と保育の改善	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第11回 /	幼児理解の方法（5） －幼児のつまずきの理解とその対応	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第12回 /	幼児理解の方法（6） －保護者との連携と理解	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第13回 /	幼児理解の方法（7） －保幼小をつなぐ理解－幼児理解と児童理解	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第14回 /	事例を通して幼児理解とその対応を学ぶ(1)	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			
第15回 /	事例を通して幼児理解とその対応を学ぶ(2)	講義、演習	教科書指定箇所の予習、復習	30
	授業参加状況による意欲の評価			

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談の基礎 Base of Educational Counseling	2単位	必修	講義	2年次	春学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	幼児・児童の教育上の問題に関し、教師がカウンセリング相談をする上で、幼児・児童および親に対して望ましい適切な援助や助言を実施するための教育相談をはじめとして、人の心をケアするカウンセリング実務の技法について学ぶことを目的とする。					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	教育相談 カウンセリング 援助 助言	学修教育目標	幼児・児童・保護者をはじめとする他者に対して、より適切な援助ができるために、自己理解をベースにしつつ、人間の心に関する理解を深めていき、カウンセリングの諸理論や方法等、カウンセリングに関する基礎的な知識を身につける。
-------	-----------------------------	--------	--

授業科目の概要及び学修上の助言

教師になるために必要な教育相談の理論と技法を学ぶ。本講義は教職関連科目であるため、15回の授業を通して、授業態度や物事に取り組む姿勢について身に付けていく必要がある。「教師になる」という高い目的意識が求められる科目であることを自覚して履修すること。主体的な学びとなるよう、各自授業ノートを準備し、学びに活かしていくことが望ましい。さらに、講義形式ではあるが、ペアワークやディスカッションを取り入れながら授業を進めていくため、積極的な姿勢で授業に臨むこと。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

「教育心理学」と関係づけて学んでいくことで学びが深くなっていきます。

教科書	参考書・リザーブブック
プリント配布	書名：『よくわかる！教職エクササイズ③ 教育相談』 著者名：森田健宏・吉田佐治子（編著） 出版社：ミネルヴァ書房

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。		
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。		
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	「教育相談」に関する基礎的な知識を理解できる。	◎
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	「教育相談」に関する基礎的な技能を修得することができる。	○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。		
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。		

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性		
	② 働きかけ力	授業中の私語を注意することができる。	△
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	これまでにない新しい解決策を見つけ出すことができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	他の人の意見を聞き、そのことについてコメントができる。	◎
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	他者のことを考えながら意見を述べるができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50						50	100
評価 の 指標	知識に関する評価		35							35
	技能に関する評価									
	応用力に関する評価		15						20	35
	チームワークに関する評価								5	5
	関心・意欲に関する評価								25	25
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
「教育相談」に関する基礎的な知識を十分に理解している。 「教育相談」の基礎的な技法を十分に習得できている。 各項目の理解度が80%以上である。					「教育相談」に関する基礎的な知識を理解している。 「教育相談」の基礎的な技法を習得できている。 各項目の理解度が60%～80%である。					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	教育現場における臨床心理学的諸問題（1） －「不登校・引きこもり・いじめ」等の問題について	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第2回 /	教育現場における臨床心理学的諸問題（2） －教育相談におけるスクール・カウンセリングの技法	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第3回 /	教育現場における臨床心理学的諸問題（3） －保護者対応について	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第4回 /	教育相談における心理アセスメント －心理検査を用い、幼児・児童の自己理解や対人関係のあり方の把握	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第5回 /	心理アセスメント（1） －教育現場や社会で用いられているさまざまな心理アセスメントについて	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第6回 /	心理アセスメント（2） －心理検査による自己理解	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第7回 /	カウンセリング技法について（1） －幼児・児童や保護者との信頼関係の確立	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第8回 /	カウンセリング技法について（2） －具体的なカウンセリング技法	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第9回 /	幼児・児童に対する療法 －認知行動療法、ロジャースの自己理論と来談者中心療法、箱庭療法	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第10回 /	教育相談の具体的な進め方（1） －目標、進め方	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第11回 /	教育相談の具体的な進め方（2） －「不登校・引きこもり・いじめ」等に対する進め方	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第12回 /	教育相談の具体的な進め方（3） －相談体制、組織的取組み	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第13回 /	教育相談の具体的な進め方（4） －学校外諸機関との連携と必要性	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第14回 /	教師のメンタルヘルス	講義・質疑応答	復習：講義内容の振り返り	30
	コメントシート			
第15回 /	これからの教育相談 確認と振り返り	講義・質疑応答	復習：講義内容・試験範囲の振り返り	30

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育実践に関する科目 教育実習	教育実習指導（初等） Guidance for School Nursing Practicum (Elementally Education)	1単位	必修	講義	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>事前指導では教育実習生として学校の教育活動の参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題を省察するとともに教員免許取得まで修得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して教育実習の意義を理解する。</p>					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	<p>教育実習指導 教育実習生の義務 教育実習参加の心構え 学校・園の理解</p>	学修教育目標	<p>・教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ・教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許状取得までにさらに修得することが必要な知識や技能等を理解している。</p>			
-------	---	--------	---	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>教育実習の意義や目的、内容や留意事項等を理解し、実習への心構えをつくる。実習を有意義で実り多いものにするために、教師としての使命感や子ども理解、教科に関する専門的知識や教科等の実践的指導力等の獲得に関する課題を持つ。また、実習を終えてからは、実習で学んだ内容と大学の講義で学んだことを関連付け整理して行動できるようにする。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>教員免許状取得に必要な科目全般。特に「幼・領域及び保育内容の指導法」「小・教科及び教科の指導法」の既履修科目で学んだこと。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブドブック			
<p>「教育実習の手引き」（授業で配布する） その他、適宜資料を配布する。</p>			<p>小学校学習指導要領解説（最新版） 文部科学省 幼稚園教育要領解説（最新版） 文部科学省 幼稚園・保育所・施設実習ワーク認定こども園対応改訂版 小林育子・長嶋和代・権藤真織・小櫃智子 萌文書林 保育の学びスタートブック 善本真弓・片川智子・金瑛珠・坪井瞳・大村あかね・久富陽子編著 萌文書林</p>			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	教職で学修した内容を実践に移せるように努力している。	○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	教科・保育内容の指導をイメージし、小学校・幼稚園での指導に必要な技能の修得に努力している。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	実習で、どの学年・年齢の子どもでも指導できるように、子どもの発達の特徴について理解しようとしている。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	小学校・幼稚園の実習で必要な指導技術を整理し修得しようとしている。	◎
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	学生ではあるが、子どもの前ではひとりの教員であるという自覚を持って実習に臨むことができている。	◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	役に立つ先生を目指し、誠実に、懸命に実習に取り組もうとしている。	◎

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	集団や組織の中で自分の役割と責任を判断し、主体的に取り組むことができる。	◎
	② 働きかけ力		
	③ 実行力		
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	自分を客観的に観察し、適切に状況を把握し、課題を見つけ解決しようとすることができる。	◎
	② 計画力		
	③ 創造力		
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力		
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。	○
	③ 柔軟性		
	④ 状況把握力		
	⑤ 規律性		
	⑥ ストレスコントロール力		
4. 倫理観	① 倫理性	建学の精神「教育は徳なり」を深く理解し、教員・保育士としての責任と自覚を持ち、自分の能力を他人のために生かそうとすることができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状態では発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50	10	10	10		10	10	100
評価 の 指標	知識に関する評価		10	2	2	2		2	2	20
	技能に関する評価		10	2	2	2		2	2	20
	応用力に関する評価		10	2	2	2		2	2	20
	チームワークに関する評価		10	2	2	2		2	2	20
	関心・意欲に関する評価		10	2	2	2		2	2	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<ul style="list-style-type: none"> 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、不足していた知識や技能を理解して修得している。 					<ul style="list-style-type: none"> 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで教育実習に参加することができる。 教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに修得することが必要な知識や技能を理解している。 					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	事前指導①—実習の手引き—（事前学習に対応） 教育実習の意義・目的、概要、実習における諸注意 教育実習生としての心構え	講義と演習	授業時に適時指示した課題 社会人基礎力事前評価作成	60
	ワークシート・課題レポート			
第2回 /	事前指導②—実習日誌の書き方— 教師のサービスの理解・学校の現状と諸問題と対応について	講義と演習	授業時に適時指示した課題	60
	ワークシート・課題レポート			
第3回 /	事前指導③—実習前指導案発表会— 指導の実際（1）実習生として子どもとの接し方・言葉づかい・態度	講義と演習	授業時に適時指示した課題	60
	ワークシート・課題レポート			
第4回 /	事前指導④—実習前指導案発表会— 指導の実際（2）指導実践の実際（指導案（計画）の作成・実践）	講義と演習	授業時に適時指示した課題	60
	ワークシート・課題レポート			
第5回 /	事後指導① 実習の報告と振り返り（1）個人	講義と演習 ディスカッション、まとめ	授業時に適時指示した課題	60
	ワークシート・課題レポート			
第6回 /	事後指導② 実習の報告と振り返り（2）事例研究	講義と演習 ディスカッション、まとめ	授業時に適時指示した課題	60
	ワークシート・課題レポート			
第7回 /	事後指導③ 実習の報告と振り返り（3）テーマに基づくグループワーク	講義と演習 グループワーク	授業時に適時指示した課題	60
	ワークシート・課題レポート			
第8回 /	事後指導④ 実習報告会	講義と演習 発表、まとめ	発表準備 社会人基礎力事後評価作成	60
	ワークシート・課題レポート			

TGU e-Learningシステム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育実践に関する科目 教育実習	教育実習（初等） Teaching Practicum (Elementally Education)	4単位	必修	実習	3年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	<p>教育実習（幼稚園）は、保育者を希望する学生が、実践現場において子どもとの関わりを通して、保育者としての必要な能力を獲得することを目的とする。 教育実習（小学校）は、教員の仕事の全量域にわたって理解を深める。また、実践現場において学級経営の実際や教育活動の仕組み、及び社会における役割を理解することを目的とする。</p>					
--------	--	--	--	--	--	--

キーワード	意義・目的・観察・評価・記録	学修教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児・児童や園・小学校の環境等に対して適切な観察を行うとともに、園・学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校・園の幼児、児童の実態と、これを踏まえた園・学校経営及び教育活動の特色を理解する。 ・大学で学んだ専門的な知識・理論・技術等を、実習校・園の活動場面で実践するための基礎を身に付ける。 			
-------	----------------	--------	--	--	--	--

授業科目の概要及び学修上の助言

<p>一定の実践指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。 教科指導における学習指導案作成、保育計画の作成等、積極的に予習をし、実習校・園にて当日学んだことを自宅にて復習する。</p>						
---	--	--	--	--	--	--

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

<p>教員免許状取得に必要な科目全般。特に「幼・領域及び保育内容の指導法」「小・教科及び教科の指導法」の既履修科目で学んだこと。</p>						
--	--	--	--	--	--	--

教科書			参考書・リザーブブック			
小学校学習指導要領解説（最新版） 文部科学省 幼稚園教育要領解説（最新版） 文部科学省 「教育実習の手引き」 太成学院大学			なし			

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）				
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	教職で学修した内容を実践に移せるように努力している。				○
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	教科の指導や保育の場面をイメージし、学校・園での指導に必要な技能の修得に努力している。				○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	実習で、どの学年・年齢の子どもでも指導できるように、子どもの発達の特徴について理解しようとしている。				△
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	学校・園の実習で必要な指導技術を整理し修得しようとしている。				○
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	教諭であるという自覚をもち、実習に臨むことができる。				◎
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	担当教諭からの指導を真摯に受け止め、改善しようとすることができる。				○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）			
1. 一步前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性				
	② 働きかけ力				
	③ 実行力	自分に必要な目的を理解し、目標を設定して行動することができる。			◎
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力				
	② 計画力	問題解決のプロセスを明らかにして、優先順位をつけて計画を立てることができる。			◎
	③ 創造力				
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力				
	② 傾聴力	相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出すことができる。			○
	③ 柔軟性				
	④ 状況把握力				
	⑤ 規律性				
	⑥ ストレスコントロール力				
4. 倫理観	① 倫理性	教員・保育者としての責任と自覚を持ち、ご指導いただく教員・保育者や子どもたちに感謝の気持ちをもって実習に取り組める。			○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合					20	50		20	10	100
評価 の 指標	知識に関する評価				4	10		4	2	20
	技能に関する評価				4	10		4	2	20
	応用力に関する評価				4	10		4	2	20
	チームワークに関する評価				4	10		4	2	20
	関心・意欲に関する評価				4	10		4	2	20
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>実習校・園での子どもとの関わりを通して把握した実態や課題に基づき、適切な指導案（計画）を作成し実践することができる。 クラス担任の役割りと職務内容を理解して補助的に実践することができる。 様々な活動の場面で保育者・教育者として子どもと適切に関わることができる。</p>					<p>学習指導要領・幼稚園教育要領に基づき適切な指導案（計画）を作成し、実践することができる。 各クラス担任の役割りと職務内容を理解している。 様々な活動の場面で子どもと適切に関わることができる。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授 業 計 画 表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	実習開始前に社会人基礎力事前評価シートを記入する。 実習終了後に社会人基礎力事後評価シートを記入する。			
第2回 /		授業担当教員、大学の担当教員、実習校の指導教員の指導を受け、実習校で4週間の実習を行う。 実習スケジュールの詳細は、実習校・園の指示に従う。		
第3回 /				
第4回 /				
第5回 /				
第6回 /				
第7回 /				
第8回 /				
第9回 /				
第10回 /				
第11回 /				
第12回 /				
第13回 /				
第14回 /				
第15回 /				

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに決めて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

学びの道標（みちしるべ）（学修支援計画書）

授業科目区分	授業科目名（下段:英名表記）	単位	必選区分	授業方法	該当年次	開講期
教育実践に関する科目 教職実践演習	教職実践演習（初等） Exercise for Teaching Profession (Elementally)	2単位	必修	演習	4年次	秋学期

授業科目の学修教育目的・目標

学修教育目的	教職に関する基本的な理解を確かなものとし、教職現場における対人関係能力、児童生徒を理解し、学級経営の基本的な能力および教科内容の理解とそれを活かした授業を構想し、実現する力など、基本的な指導力に関する能力を修得する。	
	キーワード	基本的な指導力に関する能力の修得
	学修教育目標	学校教育の場で直面する問題点を整理し、それに対応する実践的な能力を身に付ける。自己評価・相互評価を通じて各自が養成段階で修得すべき最小限必要な資質能力（教員としての使命感や責任感、教育的愛情をもって教科指導や生徒指導などの職務を著しい支障が生じることが無く実践できる資質能力）の確立を行う。

授業科目の概要及び学修上の助言

(概要) 教職に関わる課題・教科教育（特に授業現場）における課題それぞれのテーマごとに、ロールプレイング・グループディスカッション・模擬授業などを行い、問題点を整理し対応策を考える。

(助言) ・教育に対する使命感や責任感をもち、子どもに対する愛情が豊かであること。
・社会性や対人関係、コミュニケーションの能力が適切であること。

他の科目との関連及び履修に必要な予備知識や技能

(他の科目) 教育実習(小学校)、教育実習(幼稚園)、教育実習(保育所)
(予備知識) ・児童、園児の理解や学級経営等に関する必要な能力の基礎を身に付けていること。
・教科等の指導力の基礎を形成していること。

教科書	参考書・リザーブブック
学習指導要領（最新版） 文部科学省	授業ごとに必要資料を配付

No.	学科教育目標	学生が達成すべき行動目標（※1）	
①	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な専門知識を身につける。	各幼稚園、小学校、保育所での実習のための事前指導で学んだこと、又、実習で学んだことを知識と実感をもって理解することができる。	◎
②	幼稚園教諭・小学校教諭・保育士に必要な技能を身につける。	座学を通して幼稚園、小学校、保育所の子どもについての理解を深め、実習体験をもとに指導するという技術を身につけることができている。	○
③	子どもの発達に関する知識を身につける。	子どもたちの成長の歩みを確かに把握し理解しようとしている。	○
④	子どもの発達に関する技能を身につける。	座学や実習を通してなお足りない技能を修得しようとしている。	△
⑤	子どもの教育・支援に関する専門職としての使命感、責任感、倫理観を身につける。	実習を通して、いっそう強く教職の現場人になりたいと切望し、その職にふさわしい資質を身につける努力を惜しまない。	○
⑥	学修成果を総合的に活用し、教育現場などで課題解決のために取り組むことができる。	これまでの教職の学修を、教職履修カルテをもとに振り返り、卒業までに取り組まなければならない課題について努めようとしている。	○

授業科目における社会人基礎力の育成目標

分類(4つの力)	能力要素(13の要素)	授業科目における育成目標（※2）	
1. 一歩前に踏み出す力 (アクション)	① 主体性	各幼稚園、小学校、保育所での実習のための事前指導で学んだこと、又、実習で学んだことを知識と実感をもって理解することができる。	◎
	② 働きかけ力	座学を通して幼稚園、小学校、保育所の子どもについての理解を深め、実習体験をもとに指導するという技術を身につけることができている。	△
	③ 実行力	子どもたちの成長の歩みを確かに把握し理解しようとしている。	△
2. あきらめず考え抜く力 (シンキング)	① 課題発見力	座学や実習を通してなお足りない技能を修得しようとしている。	○
	② 計画力	実習を通して、いっそう強く教職の現場人になりたいと切望し、その職にふさわしい資質を身につける努力を惜しまない。	○
	③ 創造力	これまでの教職の学修を、教職履修カルテをもとに振り返り、卒業までに取り組まなければならない課題について努めようとしている。	△
3. チームで協力し合う力 (チームワーク)	① 発信力	各幼稚園、小学校、保育所での実習のための事前指導で学んだこと、又、実習で学んだことを知識と実感をもって理解することができる。	◎
	② 傾聴力	座学を通して幼稚園、小学校、保育所の子どもについての理解を深め、実習体験をもとに指導するという技術を身につけることができている。	△
	③ 柔軟性	子どもたちの成長の歩みを確かに把握し理解しようとしている。	△
	④ 状況把握力	座学や実習を通してなお足りない技能を修得しようとしている。	○
	⑤ 規律性	実習を通して、いっそう強く教職の現場人になりたいと切望し、その職にふさわしい資質を身につける努力を惜しまない。	△
	⑥ ストレスコントロール力	これまでの教職の学修を、教職履修カルテをもとに振り返り、卒業までに取り組まなければならない課題について努めようとしている。	△
4. 倫理観	① 倫理性	各幼稚園、小学校、保育所での実習のための事前指導で学んだこと、又、実習で学んだことを知識と実感をもって理解することができる。	○

※1 ◎:授業内で重点的に取り扱い、特に高い学修成果が期待される ○:授業内で取り扱い、高い学修成果が期待される △:授業内で取り扱い、学修成果が期待される

※2 ◎:効果的に発揮できる力が身に付く ○:通常の状況で発揮する力が身に付く △:身に付くことが期待できる能力

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品 (成果物)	ポート フォリオ	その他 (コメント等)	合計
総合評価割合			50		10	20			20	100
評価 の 指標	知識に関する評価		25						10	35
	技能に関する評価					10				10
	応用力に関する評価		25							25
	チームワークに関する評価									
	関心・意欲に関する評価				10	10			10	30
具体的な達成の目安										
理想的な達成レベルの目安					標準的な達成レベルの目安					
<p>教員の使命や職務に関すること、教育現場における社会性・対人能力に関すること、児童・生徒の理解と学級経営に関すること、および教科内容と授業の構想・実現に関することに関して、基本的な認識と能力を身につけている。</p>					<p>教員の使命や職務に関すること、教育現場における社会性・対人能力に関すること、児童・生徒の理解と学級経営に関することに関して基本的な認識と能力を身につけている。</p>					

※評価の指標で示す数値内訳は、おおよその目安を示したものです。

授業計画表

回数/日付	学修内容（上段）・授業内評価（下段）	授業の運営方法	TGU e-Learning システム等による学修	
			学修課題（予習・復習）	時間(分)
第1回 /	○「教職に関わる課題の理解と実践演習」 イントロダクションA（実習の振り返り・教職の意義及び教員の役割） 自身の教育実習の振り返りシートを書くことができる。	講義と演習	・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第2回 /	学校教育の課題（地域・保護者との連携，学校評価） 学校教育の課題の振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第3回 /	学級経営の課題（学級の活性化，不登校・学級崩壊への対応） 学級経営の課題の振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第4回 /	学校組織・協働（校務分掌，危機管理，資質向上と研修・服務） 学校組織・協働の振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第5回 /	特別活動・総合的な学習の時間の取り組み（意義と課題） 特別活動・総合的な学習の時間の取り組みについて振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・特別活動と総合的な学習の時間の共通点と相違点（予習）	30
第6回 /	特別支援教育の現状と課題 特別支援教育の現状と課題の振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第7回 /	事例研究A（学校教育・学級経営の側面での課題について） 学校教育・学級経営の側面での課題についての振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによる演習（体育館）	・実習期間中の指導案整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第8回 /	○「教科教育（特に授業現場）における課題の理解と実践演習」 イントロダクションB（教科に関する基礎知識の確認・補完） 教科に関する基礎知識のシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第9回 /	教科に関する知識の授業への具体化・1（指導案） 指導案についての振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第10回 /	教科に関する知識の授業への具体化・2-1（模擬授業） 実技中心の授業 —指導案発表会— 模擬授業についての批評的振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・模擬授業のための黒板計画作成	30
第11回 /	教科に関する知識の授業への具体化・2-2（模擬授業） グループワー クを含む授業—指導案発表会— 模擬授業についての批評的振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・模擬授業のための指導案作成	30
第12回 /	教科に関する知識の授業への具体化・2-3（模擬授業） 習熟度に差が あるクラスでの授業—指導案発表会— 模擬授業についての振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・模擬授業振り返り	30
第13回 /	授業運営（教科の指導力，生徒への対応）—事例研究— 振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第14回 /	教科教育における課題について 演習（自らの実習での経験・体験から学ぶ） 振り返りシートを書くことができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・授業ノートの整理 ・授業者からの提出課題に対する取り組み	30
第15回 /	「まとめ」 教員としての能力・資質の確認（自己分析・評価を含む） 教職カルテの整理をすることができる。	講義と演習 ・グループによるディスカッション	・教職カルテの整理	30

TGU e-Learning システム等による学修は、学修課題（予習・復習）に対して標準的に要する時間を記載しています。これに日々の自学・自習時間を合わせて、授業時間外の学修として授業ごとに応じて決められた時間を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。